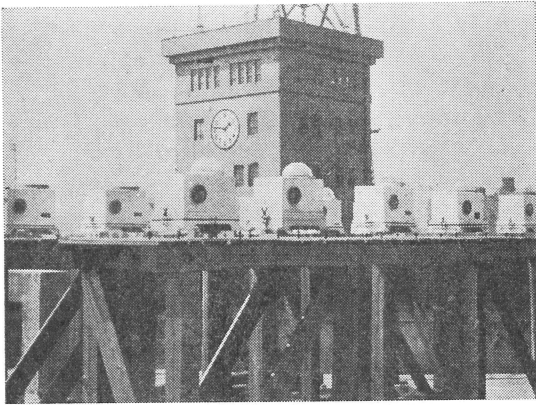


地方だより

本庁測候課



検定中のロビッチ日射計

なにしろ古い老舗です。歴史が古いだけ気象台の伝統的なよい気風を伝えていますが、それだけ身に着いた垢もかなり多いようです。

地上気象観測業務という気象業務の大地に根を広く深くおろした大樹は、科学的には行なった方がよいとわかった移植や剪定でも、影響する所が大きく、人と金の面で実行は容易な事ではない事が多いのです。従って漸進



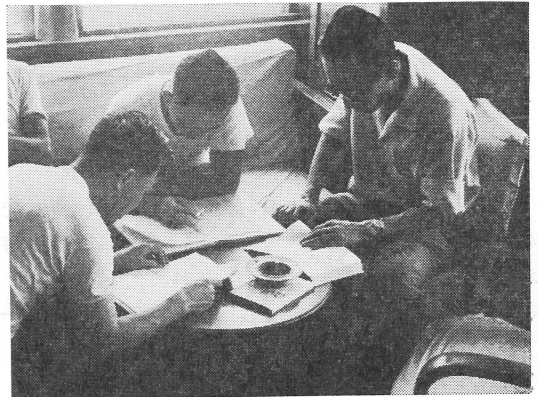
放射能実験室

主義をとらざるを得ません。

アイソトープやロケットを使っての観測のような先端的観測は華やかで興味を引きますが、一方地上観測技術のうちにはたくさんとりこぼしがあり、その穴うめは非常に大切であります。仕事がいじめなためパットしません。例えば降雪量、蒸発量、視程の観測は未解決のままです。測候課のメンメンは黙々としてその穴うめに精進しています。

測候課員約20人のうち常識円満なのは2~3人、あとは1カドのサムライで、事あればガクガクの議論が沸騰し討死という現象も多いのですが、言いたい事を言うる点は非常に民主的で測候課の美点であります。それにいろいろな国柄の人が集っているので、国内人種展覧会をみるようで、性格気質等実におもしろく現われる所です。この人達が、新刊クラウド・アトラスを討議し、日射観測の発展を論じ、放射能と気象との関係を発表し、永年気候とは何ぞやを論じる様は、けだし壮観であります。

地方の皆様観測に関する意見をどしどしお寄せ下さい。討論を通じて地方の皆様との連けいを強めて行きたいと思ひます。いかがでしょうか。(筆者 佐々木芳治)



暑さにめげず新版「国際雪図鑑の検討」中